

AYA世代（若年者）がん患者の支援ニーズ調査



地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立がんセンター AYA世代支援チーム

当院のAYA世代患者の支援ニーズを明らかにするために、
皆さんに記載いただいている「緩和ケアスクリーニングシート」の調査を行いました。
AYA世代 … 思春期・若年成人（Adolescent and young adult : AYA, 15~39歳）世代

AYA世代の患者さんは、世代によってニーズが異なるとの報告があり、年齢に応じた支援が求められています。今回の調査結果では、「きもちのつらさ」はAYA世代の全ての年齢で高率でしたが、具体的な「気がかり」は若い年齢ほど低い傾向にあることがわかりました。これは、自分の不確かな将来と「がん」という生命を脅かす重篤な疾患を与える不安を、理解し、周りの人に伝えたり相談したりすることの難しさの表れとも考えられました。これらの結果をもとに、治療中の心身の変化を周りに伝えやすく表しやすい環境づくりや、ニーズを捉える仕組みの構築を目指し、今後の支援の充実に繋げていきます。

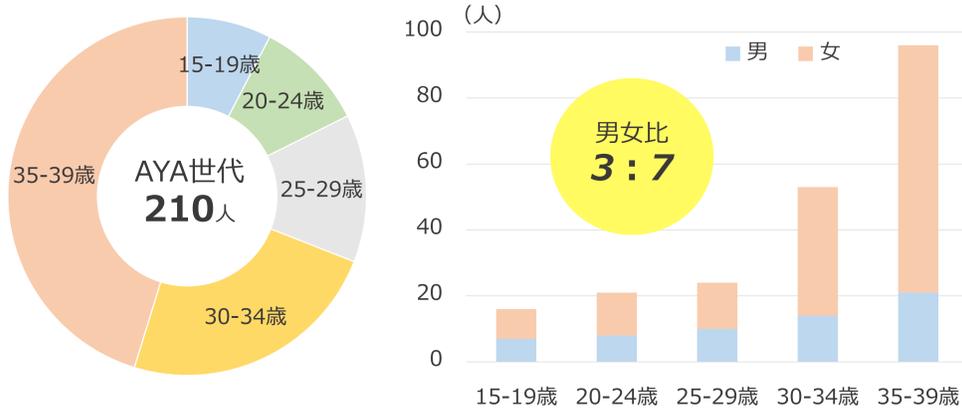
調査方法

- 期間：2021年3月1日～6月30日
- 対象：15歳以上40歳未満の男女210人
- 方法：外来または入院治療に際し、実施された「緩和ケアスクリーニングシート」のうち上記期間中における初回記入データを使用

「緩和ケアスクリーニングシート」の質問項目

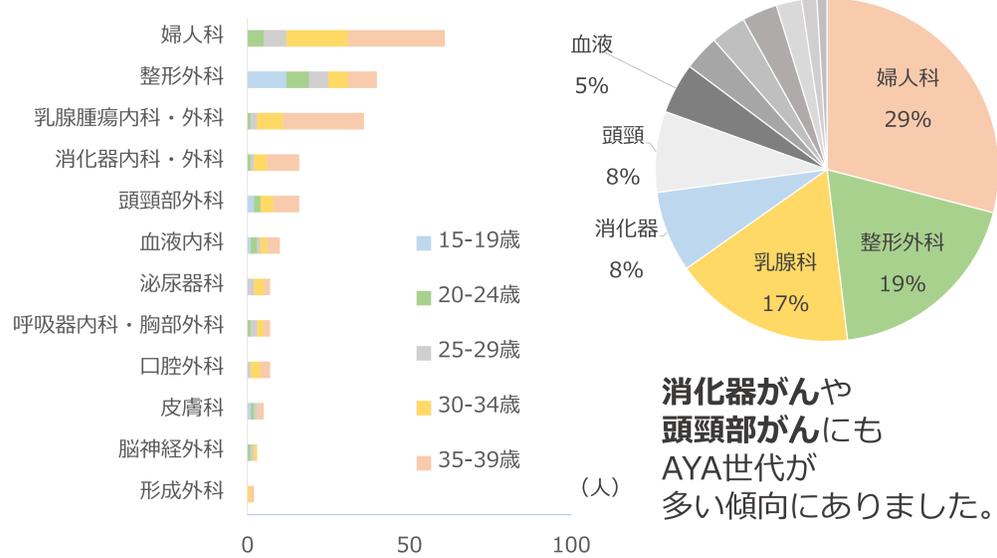
- からだ・気持ちの症状：痛み、息苦しさ、はきけ、食欲不振、だるさ（疲れ）、便秘、下痢、不眠、きもちのつらさ、その他
- 気がかり：日常生活（食事・排泄・清潔など）、医療費・生活費、仕事、住宅環境、脱毛などの容姿の変化、不妊治療・生殖機能、学業、一人暮らし、その他

年齢・性別分布



全国統計とほぼ同様の年齢分布でした。
当院のAYA世代患者は女性が多く、婦人科・乳腺科の治療数が多いことが関係していると考えられます。

診療科分布



消化器がんや頭頸部がんにもAYA世代が多い傾向にありました。

からだ・気持ちの症状

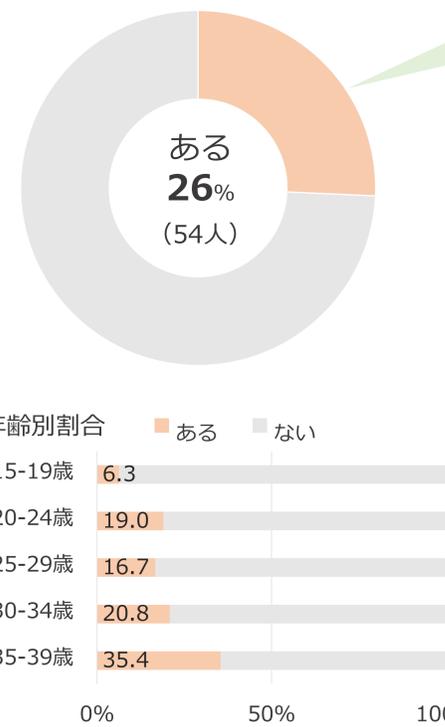
	全体 (n=210, %)	15-19歳 (n=16, %)	20-24歳 (n=21, %)	25-29歳 (n=24, %)	30-34歳 (n=53, %)	35-39歳 (n=96, %)
1位 きもちのつらさ	88.6	きもちのつらさ 93.8	きもちのつらさ 85.7	きもちのつらさ 91.7	きもちのつらさ 88.7	きもちのつらさ 87.5
2位 痛み	17.1	痛み 12.5	不眠 だるさ(疲れ) 14.3 (各)	不眠 16.7	痛み 24.5	痛み 15.6
3位 不眠	12.9	便秘 6.3	便秘 食欲不振 (各) 9.5	痛み 等※1 4.2	不眠 15.1	不眠 12.5
4位 だるさ(疲れ)	9.5		はきけ 4.8		だるさ(疲れ) 11.3	だるさ(疲れ) 10.4
5位 食欲不振	5.2				食欲不振 5.7	食欲不振 5.2

スコア2点（方法があるなら対応希望）以上複数回答可
※1 息苦しさ、はきけ、食欲不振、だるさ(疲れ)、下痢

どの年代においてもきもちのつらさが最も多く挙げられていました。

気がかり

AYA世代210人のうち54人は具体的な「気がかり」があると回答しました。年齢によって「ある」と答えた人の割合は異なることがわかりました。



	全体 (n=54, %)	15-19歳 (n=1, %)	20-24歳 (n=4, %)	25-29歳 (n=4, %)	30-34歳 (n=11, %)	35-39歳 (n=34, %)
1位 仕事	50.0	学業 その他 100.0 (各)	仕事 日常生活 その他 50.0 (各)	仕事 日常生活 その他 25.0 (各)	医療費・生活費 54.5	仕事 61.8
2位 医療費・生活費	33.3		学業 排泄 25.0 (各)		仕事 等※2 27.3	医療費・生活費 35.3
3位 日常生活 その他	18.5				日常生活 等※3 9.1	日常生活 17.6
4位 不妊治療・生殖機能	13.0					脱毛などの容姿の変化 (各) 14.7
5位 脱毛などの容姿の変化	11.1					不妊治療・生殖機能 11.8
その他		体育の授業について	新年度の授業を受けられるか バイトを続けられるか 退院後、生活仕事が入院前と同程度に回復できるか不安	車の運転に支障がないか	両膝骨挫傷にて歩行困難	遺伝カウンセリング 子どもへの告知 小学1年生の子供のこと

複数回答可
※2 不妊治療・生殖機能、住宅環境
※3 脱毛などの容姿の変化、食事、その他

その他として運動、遺伝、子供への告知などが挙げられていました。年齢に応じて気がかりの変化が見られています。